



れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校
令和元年10月号

学校教育目標
キャッチフレーズ
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子
「はきはき・にこにこ・きびきび」
<https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/>

児童数376人

376人の吾一

校長 清水 励

肌を通り過ぎる風が爽やかな季節となってまいりました。

21日に行われました運動会では、たくさんの保護者の方々、地域の方々に御来校いただき、ありがとうございました。子供たちは、運動会当日に向け、暑さに負けず、一生懸命に練習してきました。きっと、子供たちの一生懸命に頑張る姿は、御覧いただいた皆様の心にも残るものだったのではないのでしょうか。また、運動会の実施にあたって、多くの保護者の方々に、事前準備や当日の運営・片づけ、そして当日の御声援など、たくさんの御支援と御協力をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



さて、校長室の窓からは、校庭で元気に遊んでいる子供たちの姿がよく見えます。天気の良い休み時間には、緑の芝生の上で、たくさんの子供たちと先生方が元気に遊んでいます。ドッジボールをしている子、バレーボールをしている子、鬼ごっこをしている子、網をもって虫取りをしている子、鉄棒の練習をしている子、砂遊びをしている子…。たくさんの子供たちを眺めていると、「やっぱり学校はすごいところなんだなあ。」と改めて感じてまいります。一人一人がかけがえのない宝物。他者と比べることなど全く意味のない唯一の宝物。こんなにたくさんの宝物が何百人もいるのが学校。今さらですが、『やっぱり、学校はすごいところ』です。

ある先生が書かれたコラムの一節に、山本有三の『路傍の石』の一場面があったことを思い出します。（「続編・ゆずり葉のころ」藤井 均著 一教育コラム「鉄剣」一）

主人公・愛川吾一少年が、鉄橋の枕木にぶら下がり、あわや汽車に轢かれる寸前に助けられ、その翌日、先生に諭される場面のこと。先生は、「吾一というのはね、吾は一人なりという意味だ。世界に何億の人間がいるかもしれないが、愛川吾一というものは、この広い世界にたった一人しかいないんだ。たった一人しかいない自分を、たった一度しかない人生を、ほんとに輝かし出さなかったら、人間、生まれてきたかいがないじゃないか。」と言いました。吾一という名には、そんな子と思う親の思いが込められていて、それは、どの親も一緒である…。

学校では「一人一人を大切に」というフレーズをよく聞きます。口で言うのは簡単ですが、教育者としての信念とともに真に質の高い働きかけを求め続け「一人一人を大切にする」ということは、そう簡単なことではありません。しかし、いかに多忙であろうとも、行ふべきことや大切にすべきことの優先順位や教育活動の本質をあやまることなく、376人の「吾一」のより良き成長に尽力してまいりたいと思います。今後とも、変わらぬ御支援と御協力をよろしくお願いいたします。